

令和元年度 学校経営計画に対する最終報告

石川県立羽咋高等学校 No.1

重点目標	具体的取り組み	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策等）
<p>1 確かな学力と進路実現の保障</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、思考力や表現力、主体性を持って協働して学ぶ態度の育成を図り、生徒の進路実現に資する。</p>	<p>① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって共働して学ぶ態度の育成を図る。</p>	<p>教務課</p>	<p>授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>第2回学校評価の結果</p> <p>「A. よくあてはまる」 26.3% 「B. ほぼあてはまる」 59.7% A+B 86.0%で A評価</p>	<p>前年度との比較では「A+B」が3.4ポイント上昇しており、目標を達成できている。今後もペアワークやグループワークを多く取り入れたり、ICT機器を有効活用して、生徒が主体的に活動し、思考力を高められる授業を進めていく。</p>
	<p>② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業の検証</li> <li>学習意欲につながる授業改善</li> <li>教科研究会等の充実</li> <li>学力層に応じた指導方法の確立</li> </ul>	<p>教務課</p>	<p>習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科が</p> <p>A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし</p>	<p>第2回学校評価の結果</p> <p>「A. 十分効果的」+「B. ある程度効果的」</p> <p>数学（85.8%）→-3.1（前年比） 英語（84.1%）→+7.8（"） B評価</p> <p>[国語の習熟度別授業は3年生のため、第2回評価はなし]</p>	<p>平均は85.0%で前年度（86.3%）より若干下がった。但し、国語は第1回評価では92.4%で、これを加味すれば約87%になる。前年度評価の低かった英語が上昇しているが、高かった数学が低下している。生徒の意欲や学力の向上を持続させていくために、指導方法を工夫する必要がある。</p>
	<p>③ 高い進路目標を達成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業・個人面談・進路学習等をとおして進路意識の高揚を図る。</li> <li>難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。</li> <li>習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。</li> </ul>	<p>進路指導課 3年</p>	<p>ア：難関10大学・国公立医学科合格者5名以上 イ：金沢大学合格者20名以上 ウ：国公立大学合格者100名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が</p> <p>A 3項目 B 2項目、またはいずれも80%以上 C 1項目、またはいずれも60%以上 D なし</p>	<p>国公立大学最終合格者は次の通り。</p> <p>（過年度を含む） 京都大2、名古屋大1、金沢大11、新潟大4、富山大16 など</p> <p>国公立大（計）81 D評価</p>	<p>最後まで目標を高く持つことで、5年ぶりの京都大学合格者がでた。センター試験の全国平均点が大きく下がり、中位層が思うように得点できず厳しい入試となった。最後まであきらめることなく、中後期での合格者が若干ではあるが増加した。入試改革であっても、3年間を見通した進路指導を常に意識することが何より重要である。</p>
	<p>④ 学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。</li> </ul>	<p>進路指導課 1年 2年</p>	<p>年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、</p> <p>A 1・2年生ともに 65%以上 B 1・2年生ともに 50%以上 C 1・2年生ともに 35%以上 D 1・2年生ともに 20%以上</p>	<p>令和元年度月別家庭学習調査より、4月から1月までの平日家庭学習3時間以上達成者</p> <p>1学年：34% 2学年：54% D評価</p>	<p>定期試験前では3時間以上達成者が2年生では80%を超えるが、他の期間では十分とは言えない。2年生は昨年度と比較して10%以上増加しているが、1年生においては変化がなかった。平日の学習の大切さを今一度しっかり意識させる指導が必要である。</p>

重点目標	具体的取り組み	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養  あいさつの励行から始まる全ての教育活動の中で、規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	生徒指導課	第2回学校評価(生徒)で、「挨拶をしていますか」の間に、「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合(①+②)が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	第2回学校評価(生徒)で、「A必ず挨拶する」 36.2% 「Bだいたい挨拶をする」 53.8% A+B 90.0%で C評価	第1回のアンケート結果は93.3%、昨年同時期の結果は93.0%であり、ポイントはいずれも下がってきている。教職員アンケートでもA+Bは54.3%であり、年々生徒の挨拶ができなくなってきた現状が見える。朝は、集団で登校すると声が小さいか出ない生徒が多くいて、挨拶当番も立っているだけの生徒もみられるので、取組の方法や内容を検討する時期かもしれない。個人あるいは少数であるときは挨拶をしっかりとしてくれるので、教室や廊下などでの挨拶から輪を広げていきたい。
	② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施している。	生徒指導課	研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	第2回学校評価(教職員)で、「いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を、日常的に指導、実践している。」の問いに 「A.よくあてはまる」 25.7% 「B.ややあてはまる」 62.9% A+B 88.6%で B評価	A+Bは中間報告91.4%であったので、2.8ポイント低下した。昨年同時期と比べると、4.4ポイント上回っているが、Aが中間40.0%、昨年のAが31.6%あったことと比べると、教職員の指導・実践の意識がやや低下しているといえる。ほかの、「問題行動が発生した場合、組織的に対応できる体制が整っている」「私は生徒理解を心掛け、問題行動防止のための早期指導に努めている」はA+Bがいずれも94.3%と高い値であるので、次年度は「職員防犯教室」のほかにも、トラブルの未然防止や早期対応に関する教職員向けの講習会を計画・実施したい。
	③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	生徒会指導課	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～8部 D 6部以下	インターハイへは女子剣道、なぎなたの2部で個人出場となった。加えて北信越大会(新人舎)へ男女陸上競技、男女剣道、柔道部、女子弓道、なぎなた、男女空手道、少林寺拳法、ボートの11部が出場した。また全国選抜大会には12月に女子弓道、3月に女子剣道、なぎなた、少林寺拳法の4部が出場する。  A評価	今年度はインターハイでは個人出場、全国選抜大会では団体出場が目立った。次年度も練習時間に似合った内容の取り組みが必要になる。今後も団体・個人ともに全国大会への出場が1部でも多くなるよう取り組んでいきたい。
	④ 基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健相談課	保健・相談課のアンケートでバランスの良い食事を心がけていると答えた生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	第2回学校評価の結果、バランスの良い食事を「常に心がけている」「時々心がけている」の合計79.4%  C評価	昨年度に比べ、5.6ポイント上昇し、生徒の約8割がバランスの良い食事を心がけていることが分かる。意識の高い生徒が多い中、「全く心がけていない」と回答する生徒が少数ながらも存在することから、引き続き食事と健康に関する情報を発信していきたい。
	⑤ 部の顧問に協力を得て部活動単位で校内外を問わず、積極的にボランティア活動をする。	生徒会指導課	複数回ボランティア活動を実施した部の割合が  A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	複数回ボランティア活動を実施した部活動が25部中16部(4月～1月)で64%  D評価	今年度は、はくい福祉祭り、校内ボランティア、外部からの依頼等があり、参加する機会が増え、ポスター掲示や放送で促したが実施率は伸びなかった。次年度はもう少し参加しやすい状況を作り実施率100%を目指したい。

重点目標	具体的取り組み	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策等）
	⑥『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書の紹介や読書の楽しみを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	図書情報課	生徒一人当たりの貸出数が A 4冊以上であった。 B 3冊以上であった。 C 2冊以上であった。 D 2冊未満であった。	1月最終日までの貸出総数（1917冊）を全校生徒数で割ると3.2冊となった。 B評価	図書部や図書委員会及び先生方の協力を得て、推薦図書冊子、全生徒参加のブックレビュー、古本市開催などを実施、利用数・貸出数の増加に努めた。次年度以降、一層の啓発活動と促進活動に努力したい。
	⑦体育の授業で体づくり運動やチーム練習を主体的に取り組ませ、体力の向上を図る。	保健体育科	スポーツテストの結果で全国平均を上回った種目が8種目中 A 6種目以上 B 5種目以上 C 4種目以上 D 3種目以下	スポーツテスト（7月）「新体力テスト」で全国平均を上回った種目数は 男子 1年 4種目、2年 1種目、3年 2種目 女子 1年 3種目、2年 4種目、3年 3種目 平均 2.8種目 D評価	前年度は、全8種目中、平均して2.3種目であった。今後は、運動や体力に対する意識や意欲を高める指導を行い、主体的に授業に取り組ませ、競技力や体力の向上を図っていく。
3 地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティアなどの様々な活動を通して地域と連携し、地域に貢献できる人材の育成を担う学校として、開かれた、信頼される学校づくりに努める。	①授業公開や体験入学を実施することで、中学生・保護者に本校を理解してもらえるように努める。	総務課	体験入学によるアンケート調査で満足度が80%を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。	「羽咋高校への関心が高まったか」の問いに「とても高まった」が49%、「高まった」が48%であった。 合わせると97% A評価	体験入学では、昨年度から形式変更して実施したが、生徒数減少が進む中、例年通り、350名を超える参加申し込みを得ることができた。アンケートの回答で「関心がとても高まった」の割合がさらに高まるように、今後も実施内容を検討し、より魅力的なものへ改善していきたい。
	②出前授業、学校説明会、羽咋高校だより、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえるよう努める。	教務課	一般志願倍率が1.1倍に対して A 上回った。 B 同程度であった。 C 下回った。 D 大きく下回った	確定志願者倍率 1.25倍 A評価	本校主催の地区別説明会を9回から8回にし、学校だよりも4回から1回にするなど、広報活動を若干精選したが、その一方で、中学校主催の高校説明会に若手の教員に参加してもらったり、一部の中学校で2年生に対して出前授業を実施したりして、内容の刷新をはかった。また、制服改定などを周知したことにより、本校への関心が高まったが、教育内容にも関心を高めてもらえるよう、さらなる工夫が必要である。
	③保護者や外部に向けて月別毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	図書情報課	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②やや役立つ」と答えた保護者の割合（①+②の合計）が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	「保護者アンケート」において、（よくあてはまる）・（ややあてはまる）の値が、63.8%であり、昨年度の67.5%より4%ほど下がっている。 C評価	「保護者コメント」には好意的な意見もあるが、無関心な保護者が多いようである。生徒アンケート結果の72.5%に比べ10%も低い。一層の周知を図ると共に、関心を喚起するコンテンツの充実に努めたい。
4 教職員の多忙化改善 多忙化改善の取組として、放課後の働き方に対する意識改革と時間外勤務時間の縮減を目指す。	①平日は、機械警備が作動する19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動に関して、年間計画、月別計画、実施表を作成・提出して、休日に休養を確保できるようにする。業務改善にも工夫をする。	教頭	学校評価（教員）で、「多忙化改善に向けた取組」の間に、「①意識できている」「②だいたい意識できている」と答えた教員の割合（①+②の合計）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	第2回学校評価の結果で 「①意識できている」 42.9% 「②だいたい意識できている」 42.9% ①+② 85.8%で B評価	第1回学校評価の結果は、①25.7%②57.1%、計82.8%であり、意識は若干改善した。また昨年度の第2回学校評価の結果と比較しても、計78.9%から改善傾向である。来年度は、各教科・各課・各学年で業務分担をさらに平準化・明確化し、負担の軽減を図っていききたい。